

安曇野の開業医師、骨粗鬆症研究で受賞

白木正孝 成人病診療研究所 所長

久山町研究グループに、特別記念賞

●予防医療に貢献した研究者を顕彰する「遠山椿吉賞」受賞者発表●

財団法人東京顕微鏡院

医療法人社団「こころとからだの元氣プラザ」

今年創業 120 周年を迎えた財団法人東京顕微鏡院と同財団の保健医療部門をルーツとする医療法人社団「こころとからだの元氣プラザ」は、予防医療に貢献する研究者の顕彰制度、「遠山椿吉記念 第 2 回 健康予防医療賞」（副賞 100 万円）に、骨粗鬆症の診療体制確立に向けた臨床疫学研究（Nagano Cohort）構築の功績を称え、長野県安曇野市 成人病診療研究所 白木正孝 所長の授賞を決定しました。

また、特別賞として、わが国の一般住民における生活習慣病の現在に至る時代的变化と現代の中老年の健康問題を明らかにした疫学調査「久山町研究」の功績を称え、その 50 年間にわたる公衆衛生学発展への寄与を記念して、久山町研究グループ（代表：清原裕 九州大学大学院医学研究院環境医学分野 教授）に「遠山椿吉記念 第 2 回 健康予防医療賞 特別記念賞」（副賞 100 万円）を授賞することを決定しました。

遠山椿吉賞は、選考委員会（平成 23 年度委員長：折茂 肇以下 6 名の委員）による厳正な審査を経て、当法人経営会議による協議の結果、決定しています。

授賞式・記念講演は、平成 24 年 2 月 7 日（火）、都内で関係者を招き開催いたします。

受賞理由：

白木氏は、わが国骨粗鬆症患者（推定 1000 万人）の治療参加率が低く、欧米と異なり骨折が増加しているのは、「骨折を経て寝たきりから死に至る」という本疾患の臨床的意義や診療体制が未整備なためと認識。本疾患の病因、病態、治療効果から予後まで幅広く、20 年間にわたり臨床医として研究を続け、先見的な診療体制の確立を図りました。開業医として患者を診療しつつ、研究にまい進した実績が高く評価されたものです。白木氏は骨粗鬆症学会主導の研究の基礎を築き、研究は現在も継続しています。

久山町研究グループは、地域住民対象の疫学研究として世界トップレベルであり、生活習慣病、認知症、ゲノム疫学研究に先見的に取り組みました。50 年間の研究成果がわが国の公衆衛生学発展に大きく寄与した功績を記念したものです。

本賞の趣旨と本年度の優先課題：

創業者遠山椿吉の生き方を尊重し、病を早期に発見し、治療へつなげるという予防医療の基本目標について、地道に社会への貢献を追求する研究者を顕彰する賞と位置づけています。優先課題は、将来の予防医療のテーマに先見的に着手したものとしました。

遠山椿吉とは：

遠山椿吉は、明治時代に、日本で初めて臨床検査の専門機関「東京顕微鏡院」を創立し、技師の養成、学会誌発行、市民への普及啓発など公衆衛生に力を尽くした細菌学者。初代東京市衛生試験所所長を兼任し、伝染病予防のため水質に着眼し、東京に安全な水道水の供給を実現。予防医療を提唱して健康診査を実施しました。

報道機関からのお問い合わせ先：

財団法人東京顕微鏡院 公益事業室 担当 三橋（みつはし）TEL03-5210-6651

メール：mitsu@kenko-kenbi.or.jp

ホームページ：<http://www.kenko-kenbi.or.jp/>

<http://www.genkiplaza.or.jp/>